

フラワーレメディーについて

最近おいでになった方は、ご存じと思いますが、フラワーレメディー（花で作られる薬）を治療の1つとして加えています。フラワーレメディーとは、イギリス人医師、エドワードバッチにより、1930年代に心に効果のある37種類のフラワーが発見され、それにより作られた治療薬です。その微量の摂取が、心の問題の自己治癒力に働きかけるスイッチを、押すというものです。バッチ博士はそれらのレメディーを発見する時、それぞれの心の苦しみ（38種類の）とそれによる体の異常を経験し、それを癒すフラワーを発見していったといわれます。このレメディーは、心にのみ有効で体には直接の効果はありません。間違っても害がなく、赤ちゃんや妊婦さんでも安心して摂れるといわれています。ですからセルフケアのためのものなのです。しかし自分で選ぶとすると、どれもが必要に思えたり、子供の心がいま一つ、解りにくかったりしますので、O-リングテストで調べると、必要なものが良く判ります。すぐに効果が現れる場合もありますが、2~3か月かかる場合もあります。

それにしても、何で今ごろ心の問題なのか、と言われそうですが、病気を治す仕事に長年携わってきて思うことは、病気はたまたまや偶然ではないのではないかと、また、物質的なものだけが原因ではないのではないかと、ということです。そこには、心の問題や、昔の人がよく知っていた因縁的なものが存在しているのではないかと、思うのです。ですから病気そのものは嫌なものではありますが、心の問題や因縁的なものが表に現れて消え去っていくものであると思えば、これからは良くなるのだから、頑張って治そうと、勇気が湧いてきます。ルドルフ シュタイナー（人智学）によれば、人間はより完全な存在に向かって何度もこの地球世界に生まれ、その都度大きく変化した環境の中で成長を続けて行くといえます。そして人間には物質ではない気配のような存在から、全知全能の最高の存在まで16.807段階の成長レベルがあり、現代人は、8.412の段階にある、というのです。1段階成長するのに2160年が必要なのだというのです。気が遠くなるような話ですね。私たちは目に見える体と共に生命体、心、魂、の4重構造の存在だといわれます。

バッチ博士は、病気が、体に現れるまでには、心に問題や、偏りがあり、そこに気づいて治療を始めると、体にまでは現れなかったり、現れても軽く済む、また、すでに病気になっただけでも現代医学の治療と併用することが出来、より良い効果が得られるといえます。

心から体へという流れをつなぐレメディー（治療薬）が見つかったのは、このストレスの多い社会に生きる私たちには、とても嬉しいことです。自然界の偉大なる存在からバッチ博士を通じて私たちに賜った恵みが、フラワーレメディーだと思います。適切なフラワーレメディーを選び、どのように心と体が変わっていくかを経験し、ご自分やご家族、他の人々との関係の改善や心の癖を考え直すことができます。そして私たちをより幸せに、より素晴らしい存在にしてくれます。花粉症の方も問題なく使えますが、希にアレルギーを起こす方がいます。フラワーレメディーを試したい方はご相談ください。